

# 花の苑タイムズ

## 令和5年(2023年)がスタート 施設開設10周年へ向けて



高崎観音山丘陵等から初日の出を望む(1月1日)

令和5年1月15日発行  
**★★★第100号★★★**  
 〒370-0002  
 高崎市日高町433-1  
 TEL: 027-329-7211  
 社会福祉法人健康生会  
 特別養護老人ホーム  
 高崎花の苑広報委員会

### 「下期塗り絵大会」 14名がエントリー

令和四年度下期塗り絵大会の作品募集がこのほど締め切られ、今大会には十四名がエントリーされ、テーマの「冬」を題材にそれぞれの思いを込めて塗り絵作品を提出して頂きました。

塗り絵全作品については今月号紙面に写真掲載しました。この後、順次各ユニットを巡回展示し、皆様にご覧いただくと同時に、全作品について表彰と記念品を授与させて頂く予定です。参加して下さった各ユニットの利用者様、職員の皆様、今回もご協力頂き、大変ありがとうございました。

### 「Gちゃん」に投票を！ (推しマスケット総選挙)

県内の企業・団体をPRするマスケットの人気を競う「第一回上毛新聞推しマスケット総選挙」(上毛新聞元旦号第五部に掲載)に、群馬県老人福祉施設協議会(県老協)の人気マスケットキャラクター「Gちゃん」(写真)がエントリーしています。

県老協では、「介護」のPRのため、関係者に「Gちゃん」への投票を呼び掛けています。投票方法は紙面の応募フォームにウェイブ投票するかハガキによる投票。投票すると抽選でステキな賞品がプレゼントされます。投票期間は一月三十一日まで。

### 「SDGs行動宣言」を発表 より持続可能な未来へ(県老協)

より持続可能な未来のために・国連が提唱するSDGsに賛同し、高齢者福祉施設の普遍的な事業継続を目指して県老協では昨年末、「SDGs行動宣言」を発表しました。

同行動宣言では、「高齢者福祉・介護の支援を必要とするすべての人に、老人福祉施設・事業所の持つ安心・安全で質

の高いサービスを提供する」という理念のもと、事業活動を通じて重点的に取り組む三点の課題を取り上げ、その具体的なGs行動宣言」を発表しました。

取り組みを示しています。重点課題は以下の通りです。①地域福祉の推進②多様な人材の活躍③資源の意識啓発等。

このうち「地域福祉の推進」では、「地域包括ケアの理念に寄り添い、高齢者はもとより、地域に住んでいる方々の福祉の向上を目指し、地域全体の皆様の「つながり」を大切にします」などの取組みを掲げています。これらはSDGsの17のゴールのうち、「③すべての人に健康と福祉を」「⑩住み続けられるまちづくりを」に関連する目標と位置付けています。

「花タイ」が最優秀賞今年度コンテストで群馬県老協の今年度(第十四回)広報コンテストの広報紙部門において、「花の苑タイムズ」が初の最優秀賞を受賞しました。

また、フォト部門は昨年引き続き佳作入賞となりました。



出となりませんが、引き続きご愛読のほど、よろしくお願い致します。

### 雑感手帖

加藤和昭

「花の苑タイムズ」は創刊百号に到達しました。広報委員会の皆さんご苦労様。ひとえに継続力の賜物だと思えます。継続力があるというのは違う角度から言えば、責任感がある、そして粘り強いとも捕える事ができます。この百号はそれを示せたのです。素晴らしいことです。

もともとは世界最古の新聞「タイムズ」をオマージュして「花の苑タイムズ」は誕生しました。もうすぐ高崎花の苑は十年目ですが、本当にいろいろありました。回顧すると自分自身にフラグを立てるようでちょっと嫌ですが、皆と一緒に成し遂げたことが多いです。でもその倍くらい頭を悩ませることもたくさんありましたね、ホントに。

ディランの「ザタイムズゼイアーチェインジーン」曲名のままですが、時代は移り変わるので

### 「花の苑タイムズ」100号記念

す。私も年を取ったせいですが、今までになかったような感情が生まれ、若い者が日々頑張っている姿を見るときは目を細めます。まだまだ粗削りなところもいんじやないですかね。私はもっと生意気な青年でしたよ。

「花の苑タイムズ」は今後も移り変わる時代の流れを施設の中から発信し続けてもらいたいです。タブロイド紙じゃないですけど、そんな役割じゃないでしょうか。今後も一緒に歩いていきましょう。

(施設長)

### 「花の苑タイムズ」 百号発行に寄せて

秋山末司

「花の苑タイムズ」百号発行、誠におめでとうございます。まさに、継続は力なりですね。さらに、群馬県老協の「広報コンテスト」に

於いて、最優秀賞を得たことは、その内容のすばらしさを証明されたことと言えます。

さて、ここで「地域密着型特別養護老人ホーム」が一般的に担っている地域における課題や問題点について、少し考えてみたいと思います。

まず地域や住民の方々の見方や考え方は画一的ではなく、その根底には多種多様な課題を抱えているという事です。そのことについて、一面的な見方によって、私たちが見落とし気味かぬまにしていることはないか。そのような気持ちで地域と、そこに暮らす人々の願いや思いに寄り添うことで何が必要かを見極め、施設運営に出来る限り実践的に生かしていくのが、地域密着型特養のあるべき姿の一面だと言えましょう。

その一助としての広報紙の役目は大変重要であると思えます。

ぜひ、これからも施設長を中心に、より良い経営がなされることを強く願うものです。

(健生会理事)

### 2023(年男)

#### 「代表抱負」

皆様、新年おめでとうございます。私ごとですが、長女が誕生日プレゼントにネザラランドドワーフという兎を希望し、飼いはじめから一年が経過しました。

コロナ禍において、兎は熱帯魚や小型犬と同様に、家の中でも比較的飼育しやすいとの理由から飼いはじめた人が増えているようです。ただ飼育しやすい反面、世話が疎かになり、突然体調不良になり、人間が気づいた時には、もう手遅れの状態になってしまうこともよくあるそうです。

体調不良になる原因として、大きな音や急な温度変化など、環境面における「ストレス」が要因として上げられます。また、



た、自然界においては捕食される側で、他の動物よりも臆病で、体調が悪くても「我慢」する傾向にあるそうです。

「ストレス」と「我慢」。さて、花の苑では幸い健康診断とストレスチェックが年一回行われます。心と身体を客観的に分析・数値化され、自分自身と向き合う機会となります。自分の性格上、楽な方へ流される傾向にあるので、仕事の生産性を上げるためには、適度なストレスがあった方が良くはないかと、前向きに捉えるようにはしています。

幸い、仕事で思うようにならない事、大変な事があっても、周囲に信頼できる職員がいるので、一人で抱え込まないようになりたいと思います。

### 新春フオト



以上、年男(兎年)の代表として、久保田より新年の挨拶とさせていただきます。



# 「花タイ」創刊百号を迎えて 必要とされる広報紙の持続発行を

高崎市の苑広報委員会

『花の苑タイムズ』（略称「花タイ」）は、今年で記念すべき百号目の発行を達成しました。まずはこれまで支えて下さった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。  
現場の職員目線で  
広報紙発行を着想

## 「発行継続する」

また、創刊当時の広報委員会において皆で確認し合ったことは、とにかく「継続していくこと」でありました。それには「どんな状況が発生しても」との伏線があり、それなりに理解している積もりでしたが、突如発生した新型コロナウイルス感染症流行はその理解をはるかに超えて立ち塞がり、このまま発行継続ができるのかと一時は思いました。

## 「地域交流紙」をイメージして編集

「花タイ」は地域に開かれた施設経営を目指す中、その一つの推進力の役目として「地域交流紙」をイメージし、地域との

# 「花の苑タイムズ」100号記念

交流を中心に据えて紙面編集に取り組みできました。その地域交流が止むを得ず完全ストップしたことによるダメージは少なからずありました。今の月刊を隔月刊に、もしくは年四回発行の季刊に変更しようと思えば、その理由付けも出来たと思えます。しかし、創刊当時の約束事を簡単に反故にはできなかつたし、一度退いてしまえば、そのままのままで休止に向かうだけというのはよくあるパターンであり、ここは踏ん張りどころと思つたものです。少し飛躍した話になりますが、東日本大震災の際、壊滅的だった新聞報道メディアの中で、災害発生直後の数日間、唯一報道の使命を果たしたのは、小さな地元新聞社が行った消息確認の壁新聞でした。次元が違う例えかもしれませんが、未だ収まらぬコロナ禍で、かつての様にご家族と触れ合うことが出来ない中、施設内の情報を得る手段は「花タイ」のみという多くのご家族にとって、まさに前述の壁新聞の役割に通じるものと思つたのですが少し過信でしょうか。

## 「花タイ」最優秀賞に （老施協コンテスト）

先日、群馬県老施協から今年度第十四回広報コンテストで「花の苑タイムズ」が最優秀賞に選ばれたとの連絡を頂きました。百号記念を目前にして最高のタイミングであり、広報委員会として持つてきた努力への評価と受け止め、今後への励みにしていきます。ともあれ百号を新たな出発として、これからもサステナブル（持続可能性）な施設経営と必要とされる広報紙の持続発行に取り組みしていきます。これからもご愛読並びにご支援をよろしく願います。  
（永井 博）

# 「花タイ百号の歩み」



# 「花の苑タイムズ」100号記念

## 広報委員スタッフ 一言コメント

「花の苑タイムズ」百号発行おめでとうございます。私は入職して間もないため、まだ未熟の身と思っておりますが、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っております。広報委員となり、伝えることの難しさをあらためて感じています。今後は皆様に日々様子が伝わるよう、精進していきます。  
（新井康正）

広報委員として担当ユニットの行事などをお伝えしていますが、その中で他のユニットの企画や行事進行などをいつも参考にさせて頂いて、行事に反映させています。記事にすることで自分の振り返りにもなり、勉強にもなっています。ご家族様に、利用者様がどの様に日々過ごされているかをお伝えできたら幸いです。  
（市川恵理子）

広報紙に携わる一人として、想いを深くしていることがあります。

今、コロナ禍により、面会制限によってご家族様と会えない日々が続いています。その中で、利用者様の最高の表情をご家族様へお届けしたいという想いを込め、ユニット行事など開催し、その模様を撮影しています。

百号を機に、これから笑顔溢れるユニット内のご様子を活字と写真でお届け致します。  
（石川聡子）

広報紙「花の苑タイムズ」の百号おめでとうございます。広報委員として記念すべき号に携わることができ、本当に嬉しく思います。これから利用者様の日々の生活や、素敵な笑顔をお届けできるように精進してまいります。  
（上原麻菜美）

「継続は力なり」と言

いますが、百号まで続けてこられたのはすごいことだと思います。

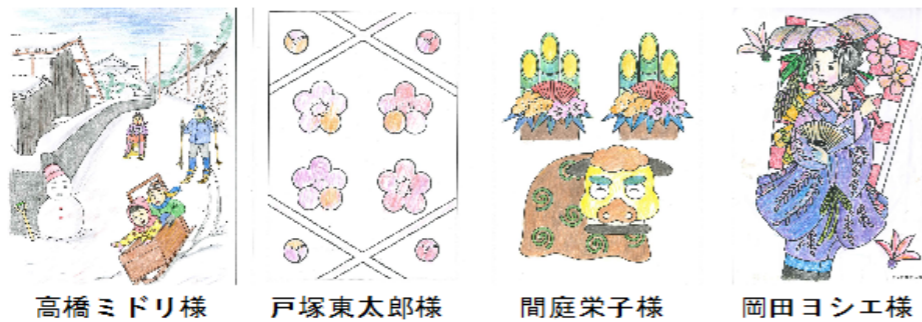
これからも地域へ、ご家族へ「花の苑はこんなところですよ」という情報を発信していきたいよう、自分なりに努めていきたいと思っております。  
（坂井 円香）

花の苑へ入職した時、このような広報紙を毎月発行していることに驚き、又素晴らしいと感じたことを思い出します。一言に百号と言っても、そこに携わった方々の苦労や努力があつてこそ百号だと思えます。私も微力ながらそこに参加させて頂き、作成に関わる難しさも実感しています。

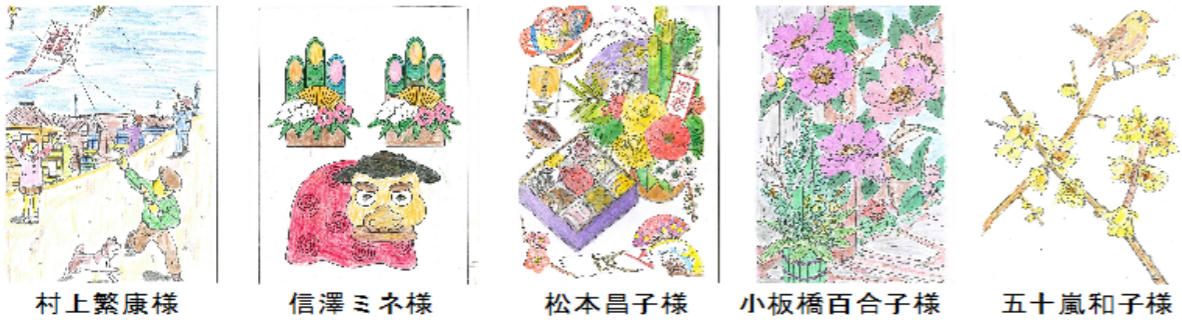
「これからも、二百号、三百号と続くことを心から望んでいます。  
（堀越 由芳）

創刊号から携わってきたこともあり、百号には感慨深いものがあります。

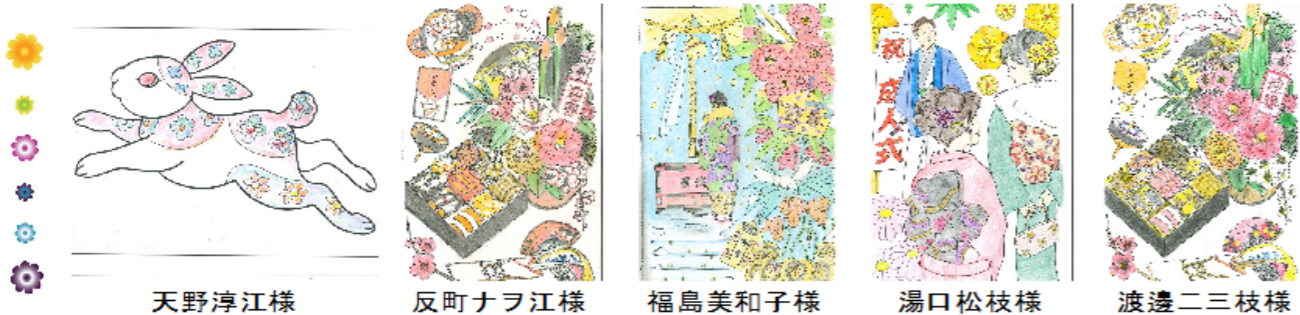
# （令和4年度下期） 塗り絵大会参加作品



高橋ミドリ様 戸塚東太郎様 間庭栄子様 岡田ヨシエ様



村上繁康様 信澤ミネ様 松本昌子様 小坂橋百合子様 五十嵐和子様



天野淳江様 反町ナヲ江様 福島美和子様 湯口松枝様 渡邊二三枝様

（齋藤美沙紀）



【ユニットたより】

「最高のプレゼント」

Dユニットのクリスマス記念行事では、四種類のクリスマスマフィン作りを行いました。

①マシユマロ、生クリーム、チョコペン、小枝で作るスノーマンマフィン。②緑クリーム、アラザン、カラフルシユガーで作るクリスマスツリーマフィン。③イチゴ、生クリーム、チョコペンで作るサンタさんマフィン。④チョコ生クリーム、ランクドシャ、プレツチェル、マーブルチョコ、チョコペンで作るトナカイマフィン。

以上の写真付きのメニューを用意し、利用者様が「かわいい！どれも美味しそうだから困っちゃう」



もちろん味は・最高に美味しいと言いつつ、豪快に召し上がる利用者様の笑顔に、職員はとっても嬉しい気持ちになりました。

最後に職員の手作りクリスマスカードをプレゼントし、皆様と楽しいクリスマススイブを過ごすことが出来ました。

(Dユニット I)

「サンタ登場！」

年末の恒例行事クリスマスといえ、サンタクロースにプレゼント。Eユニットでは、今年も職員がサンタに扮し、利用者様にプレゼントをお渡ししました。皆様お一人お一人に事前に欲しいものを尋ね、品物を購入しラッピング。職員もわくわくしながらクリスマス当日を迎えました。

利用者様と職員で「きよしこの夜」「ジングルベル」を歌い、クリスマス気分を高めたところで、「メリークリスマス！」とサンタが登場！利用者様お一人お一人にプレゼントをお渡ししました。



Fユニット井上ヤス子様は「こんな良いものもあっていいん？」と早速プレゼントのバックを使って喜んでおられました。Eユニットの戸塚東太郎様もお気に入りの帽子を被り「暖かいなあ」と、とても満足そうでした。



クリスマス会を各ユニットで  
四種のマフィンなどプレゼント

皆様それぞれがこの日のサプライズとクリスマス気分にとっても満足された様子で、サンタとのツーショット写真も笑顔が溢れ、本当に素敵なクリスマスとなりました。

(E・Fユニット U)



「カラオケで年忘れ」

利用者様それぞれに思い出が刻まれている年末行事「忘年会」。皆様のお気持ちを受け止めてDユニットでは、忘年会行事としてカラオケ&鍋パーティーを行いました。

昭和の名曲メドレーをユニット内で毎日流し、持ち歌を一生懸命練習しましたね。今回のカラオケ大会に参加して下さった五十嵐和子様は声量が素晴らしく、皆様が聞き入ってしまうほど。後から聞くとオペラの経験があるとの事でした。

その他、デュエット曲を二曲見事に歌い切った松本昌子様、箱田俊子様。三曲美しい歌声を披露して下さった村上繁康様は、さらに総合司会までやり遂げて下さいました。ちよつびり歌が苦手



さて本番の鍋。濃厚味噌ラーメンに入れたのは人参、しめじ、焼き豆腐、ニラ、白菜、鶏団子、エビ団子等何とも豪華な具材。カラオケを行っていた時から何ともいい香りが広がっていましたね。仕上がった鍋と共に記念撮影。いざ実食。「初めての味！味が染みて美味しい！」とお言葉を頂きました。歌い切った皆様の身体に染み渡ったのではないのでしょうか。

今年も行事を通じて、皆さんの笑顔と美味しい食べ物をお届けできたかなと思います。来年も季節に合わせて楽しい行事を提案させて頂きま。皆様にとって素敵な一年になりますように。

(Dユニット I)

【ユニットたより】

「ハッピークリスマス」

ASユニットの十二月行事では、恒例のクリスマス会&忘年会を行いました。

最初にサンタが登場し、プレゼントを配るかと思いきや、サンタによるビンゴ大会の開催挨拶。クリスマスの雰囲気を出すため利用者様にもサンタの帽子を付けてもらおうと「私、そんなの似合わないよ」と言いつつ、最後は喜んで被って頂きました。

ビンゴが始まった瞬間に皆さん真剣な眼差し。「ようし頑張るぞ！」



番になるよ！」と意気込んでいました。ゲームは一喜一憂しながらも楽しく進み、最後には全員にプレゼントが渡され、サンタが終わりを告げ、退場しようとするところ「ありがとう」と皆さんから満面の笑顔と拍手が送られました。

最後に忘年会の意義を込め、皆様の健康を願って乾杯を行いました。用意したメニューの中から好きな飲み物を選んで頂きましたが、中にビール(もちろんノンアル)があることにAユニットの荻野様は「こりやうたまんないよ」と大喜び。

今年も笑顔溢れる年末行事でした。来年もいい年でありますように！

(A・Sユニット A)

「ツリー飾りを賑やかに」  
BCユニットでは、年

年末恒例クリスマス会  
ビンゴ大会など賑やかに開催

十二月に入ってからユニット内のリビングにクリスマス装飾を行い、ツリーの飾りは福島様と町様が積極的に手伝って下さいました。「こっちは何にもないよ」「雪を降らせて」などと雰囲気作りに一役買ってもらいました。また、正面以外も気になる様子で、



当日はロールケーキをデコレーションして、皆様と一緒にいただきました。「おいしそう！」「食べるのもったいないね！」と言いつつ、賑やかに皆さん完食されました。



委員の一言メモ

★新年おめでとうござい。昨年からは始まった塗り絵大会に向けて、皆様真剣なまなざしで取り組んでいました。(康)

★初詣は氏神様に毎年お参りをしています。今年も健康に過ごせますように(理) ★念願のホームベーカリーを購入。全粒粉パン、米粉パン、ピザ生地作るのが楽しみ(聡)

★今年も元気に利用者様と一緒に笑いながら過ごしたいと思います。(麻)

★寒い日が続き先日、遅まきながら炬燵を出したところ、人間よりも猫の方が使う頻度が多いです(円) ★コロナ流行が続いていますが、職員間的一致団結力は素晴らしい、感謝しています(由)

★今年も百号記念号でスタート！これからも皆様からの声を励みに(美)

★初日の出を屋内で見える人気スポット・市役所21階展望ホールの抽選に今年も漏れ、今年も観音山丘陵の寒風下での撮影。今年も無事出発(井)

